

## 実践例「学校・学級経営の充実・深化」

### 「課題5 個性を活かす指導計画・実践と評価の改善・充実」

I 学校名 渡島 北斗市立島川小学校

## II 研究の概要

### 1 研究テーマ

『子どもたち一人一人のニーズに応じた教育の充実』  
～ユニバーサルデザインの視点に基づく授業～

### 2 研究テーマ設定の理由

- (1) **今日的な課題**「令和の日本型学校教育」の推進と教育の質的向上、ICT機器の活用、そしてインクルーシブ教育の実現が求められている。すべての子どもが主役となり、個人のニーズに応じたきめ細やかな指導を行うことが必要である。
- (2) **学校教育目標の具現化**本校では学校教育目標を「未来をひらき心豊かにたくましく生きる力の育成」としている。令和7年度は重点教育目標を「ふるさとから学びたくましく自律し続ける子の育成」と設定した。この目標を達成するためには、子どもが「わかる喜び」「できる楽しさ」を実感できる授業づくり、およびユニバーサルデザイン（UD）の視点に基づいた環境づくりと児童理解が必要である。

### (3) 子どもの実態

本校は全校児童19名の小規模校であり、複式学級や特別支援学級を有している。児童は素直で優しく、行事や体力向上（縄跳び等）に積極的に取り組む姿が見られる。

- **表現力の課題**：自分の考えを言葉で表現したり、根拠を持って説明したりすることへの苦手意識がある。
- **【課題】**：音読はできても深い内容理解には気づいていない面があり、設問の意図を把握する力の育成が急務である。また、児童が自ら根拠を持って選択・自己決定できるシーンをさらに増やす必要がある。

### 3 子ども像を目指す

#### (1) 学校経営の視点から（重点教育目標の達成イメージ）

- **【自分の考えをもつ子】**：自分の意思で選択や意思決定を行い、行動できる。
- **【他者とかかわり】**：他人との関わりの中で、自らの良さや持ち味を発揮できる。

#### 4 重点教育目標と研究課題のかかわり

「自律し続ける子」を育てるためには、子ども一人一人の現状や教育的ニーズに応じた支援が目安であるUDの視点に立って、「学ばせたいこと」や「解決の目安」を明確に組み立てる授業構成を行うことで、学習を高め、基礎・基本の確立（学力の確保）を行うデジタルドリルやICT機器を効果的に活用し、「わかる・できる」を実感させることで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

また、表現できる場の設定と工夫することで地域の方々との交流や地域の実態を学習に取り上げ、自らが目標をもち繰り返し活動することで苦手意識を克服できると考える。



### Ⅲ 実践例

#### 1 地域の資源を生かした教育活動

北斗市教育のめざす姿の基本目標は「持続可能な社会の担い手として、新しい時代を生き抜く力を育む教育の推進」であり、基本方針として「誰一人取り残さない、ふるさとを愛し、そして世界にはばたく子どもたちの育成」を掲

げている。

本校では、小規模校のメリットを最大限に生かすために、ふるさとの豊かな自然環境をはじめとした地域の産業や地域の人々との交流を生かした教育活動を展開している。

また、今年度の重点教育目標を「ふるさとから学び、たくましく自律し続ける子」の育成とし様々な教育活動で「自律」する力を育む教育課程を編成、実施している。

## ◎ 地域の産業を生かした活動

### ① 地域の清掃活動

田植え前の5月、縦割り班で学校のまわりのごみ拾いを行っている。田んぼのまわりのあぜ道や用水路の清掃をすることで、稲作活動に対して一年間の見通しを持たせる。

高学年は、低学年の世話をしながら危険な箇所の説明をして地域案内も行う。



### ② 田植え体験活動

5月末。土曜授業として地域の農家の方の水田を借り、全校児童保護者、地域の方と一緒に田植え体験活動を行う。地域の「お米の師匠」から田植えのコツを聞き、高学年がさらに低学年に作業のコツを教える。地域の方は、児童の活動を見守り、時には優しく声掛けをしてくれる。参加者全員が泥んこになりながら作業をしている。（本校は、特認校である。未就学の児童も本校に興味をもてるようにオープンスクールとして参加を促している。）



### ③ 稲刈り体験活動

9月末。田植えと同様に体験活動を行う。低学年が保護者とともに稲刈りを行う。その刈った稲を束にする作業を高学年が担っている。なかなか束にできなかった、高学年も地域の方の説明で出来るようになった。

（田植え同様オープンスクール・・・未就学の子にも高学年は優しく声をかける姿がみられた。）

稲束をリヤカーに乗せ、学校まで運び、稲架がけ作業も高学年の作業である。



後日、5年生が脱穀体験を行う。

#### ④ 餅つき体験

12月。今まで関わった方々やお世話になった方々とともに餅つきで収穫の喜びを行う。杵、うすを使った餅つき体験や餅丸めなども高学年がリーダーとして活動を行う。その後、地域の方保護者の方と会食する。



#### ⑤ 野菜マルシェ

島川は野菜作りも盛んな地域である。それぞれの学級ではどんな野菜を育てるかを相談し学級園で野菜を育てている。ミニトマト、キュウリ、すいか、じゃがいも、さつまいも等を毎朝登校後、水やりを行い、休み時間には雑草取りなど熱心に野菜作りを行っている。

夏休み自分の育てた野菜収穫し、家族と一緒に野菜料理を考え、レシピをカードにまとめ披露する。。

また、地域の野菜農家の方や栄養教諭を講師に野菜サミットを開催し、野菜に対しての知識を深めている。



## IV 最後に

地域の資源を生かした教育活動を行うことで地域の方々との交流や作業活動など重要であると考えます。子ども一人一人に考える場面を工夫したり人との関わりをもたせたりすることで自分の考えをまとめ表現することで自己有用感をもてるようになってきた。これからも継続して地域と関わりながら教育活動をどのようにしていくかを考えていきたい。

